

世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA 大会報告書

約 1,000 名の来場者、関係者を迎え、興奮と感動に包まれながら大盛況のうちに終了！

2022 年 11 月 3 日（木・祝）午後 1 時より大阪国際会議場 5 階メインホールにて『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』（<https://cancer-zero.com>）が開催され、今大会で通算約 7,400 名の皆様にご来場されました。

以下は、世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA 当日のご報告です。

オープニングでは、会場のスクリーンに 2019 年米国サンフランシスコで開催された『2019 World Alliance Forum in San Francisco』の映像が紹介され、その後、大会長 原丈人氏による力強い開会宣言で開幕致しました。



大会長 原丈人氏

開会式では岸田文雄内閣総理大臣の代理として大会長の原丈人氏が代読。



次に内閣総理大臣補佐官 森昌文氏、そして厚生労働大臣 加藤勝信氏の代理として厚生労働省医務技監 福島靖生氏のビデオメッセージ。



内閣総理大臣補佐官 森昌文氏



厚生労働省医務技監 福島靖正氏

そして前内閣総理大臣補佐官、大阪府・大阪市特別顧問 和泉洋人氏の「未来医療という点において 2025 大阪・関西万博の理念と世界がん撲滅サミットの理念は共有されたものだ」とのスピーチに続き、



前内閣総理大臣補佐官、大阪府・大阪市特別顧問 和泉洋人氏

大阪府知事 吉村洋文氏は「がんの撲滅はできるのだと信じて、これを実行していく！これが重要だと思います。そして自分たちの孫や子どもから、あのおじいちゃんたちの世代ががん撲滅を目指してくれたからがんは死なない病気になったんだね、と感謝されるまでやり抜くべきです」とご祝辞を述べられました。



大阪府知事 吉村洋文氏

さらに経済産業省 商務・サービス審議官 茂木正氏、香港中文大学医学部長・教授のフランシス・チャン氏の祝辞。



経済産業省 商務・サービス審議官 茂木正氏



香港中文大学医学部長・教授 フランシス・チャン氏

これに続いて、『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』特別顧問・元厚生労働事務次官 二川一男先生から激励並びにご祝辞をいただき、一般社団法人日本癌学会理事長 佐谷秀行氏よりビデオメッセージをいただきました。



元厚生労働事務次官 二川一男氏



一般社団法人日本癌学会理事長 佐谷秀行氏

さらに、ご来賓として中村祐輔氏（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所理事長）、園潔氏（公益社団法人関西経済連合会副会長）、松浦成昭氏（大阪国際がんセンター総長）、坂口志文氏（大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授）、西澤良記氏（公立大学法人大阪理事長）、近藤昭彦氏（神戸大学副学長）、『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』顧問で株式会社エフ・アール・シー・ジャパン代表取締役社長 清水美博氏のご紹介。



そして世界がん撲滅サミット開催にあたり多大なるご支援をいただいている清水美博様に大会長 原丈人氏より感謝状と記念品を贈呈致しました。

その後、戦略講演として、原丈人氏の大会長講演「公益資本主義が医療を変革する!」、続いて経済産業省講演として経済産業省商務・サービス審議官 茂木正氏より「経済産業省が取り組む未来のヘルスケア」、そして米国代表講演としてシカゴ大学プレジジョン医療研究センター長 マーク J.ラテイン教授は「米国が描くがん撲滅戦略2022」と題してVTR講演くださいました。

ラテイン教授は、「特に FDA（米国食品医薬品局）には標準量を見直して投与量を最適化するための検証を開始せよ! との圧力が年々高まっている。そしてがん患者に向けて、主治医と薬剤の最適化を話し合い、それについて検討したことがあるかを尋ねてほしい。また世界中の規制当局はすべての新しい抗腫瘍薬に対して用量の最適化を求める必要があること。市販薬の低用量の研究に対しては優先度の関係からこれを急ぎ、なおかつ政府機関も研究資金の後押しをするべきである」との見解を示してくださいました。



シカゴ大学プレジジョン医療研究センター長・教授
マーク J. ラテイン氏

Conclusions

- Cancer patients should ask their physicians whether they have considered prescribing lower doses of drugs, particularly for those drugs whose dose has not been optimized.
- Regulatory authorities around the world should require dose optimization of all new oncology drugs.
- Studies of lower doses of marketed drugs should be a high priority, ideally funded and organized by government agencies.

次に今大会から、本サミットの目玉企画であり、医師と来場者との真剣勝負ともいえる公開セカンドオピニオンの第1部が実施。様々ながん治療分野のリーダー11人とすい臓がんサバイバーの高村僚氏の12人がステージに登壇。ご参加いただいたがん患者やご家族等から熱心な質疑応答が行われました。



司会進行を務めた、代表顧問・提唱者の中見利男氏も、質問者の意をくんで、担当の先生だけではなく、他の先生のご意見も余すことなく聞き出し、質問者が本当に納得・安心するまで司会を遂行。

続いて前内閣総理大臣補佐官、大阪府・大阪市特別顧問 和泉洋人氏による「がん撲滅 命輝く未来のデザイン——大阪・関西万博の挑戦——」。



前内閣総理大臣補佐官 和泉洋人氏

厚生労働省講演として厚生労働省医務技監 福島靖正氏の「がん対策加速化に向けて 2022」と題したVTR 講演、そして日本代表講演として、出澤真理氏の「がん治療における臓器傷害からの復活 Muse 細胞がリードする健康長寿社会の実現」が行われ、



東北大学大学院 医学系研究科細胞組織学分野
教授 出澤真理氏

このなかで「Muse 細胞によってがん治療で傷ついた内臓や血管が修復され、副作用の軽減につながる可能性があります」との見解を示してくださいました。

続いて「ノーベル賞級講演 I」として、一昨年『クラリベイト・アナリティクス引用栄誉賞』を受賞されました中村祐輔氏の「がん患者に夢と希望を！」が行われ、このなかで「ゲル解析の方法一つとっても、この国の患者ファーストに向けたがん医療改革は急がれる」との見解を示してくださいました。



国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所理事長
シカゴ大学名誉教授・東京大学名誉教授 中村祐輔氏

続いて「EU 代表講演」としまして 2019 年の欧州臨床腫瘍学会会長で、肉腫等の希少がんを含む世界のがん医療の権威、仏レオンベラルセンター教授 ジャン=イヴ・ブレイ氏より「がん撲滅に向けたがん治療最前線 2022」というテーマでVTR 講演をしていただきました。



仏レオンベラルセンター教授 ジャン=イヴ・ブレイ氏

次に、大阪モノ作り講演として「下町ロケット」のモデルといわれている青木豊彦氏（株式会社アオキ取締役会長）より「真っすぐに人を信じるこそ重要だ。情熱を持って事に当たれば道は拓けてきます」との力強い激励のメッセージが贈られました。



株式会社アオキ取締役会長 青木豊彦氏

そして公開セカンドオピニオン第2部が実施され、会場から「生きるとはどういうことですか?」という若い女性の質問に対して、佐野圭二医師や、すい臓がんサバイバーの高村僚氏が真摯に回答し、最後に司会の中見利男氏が今大会に寄せられた 1 通の 26 歳の女性の患者の方の切実な「生きたい」という一言を紹介。

「生きるとは生きたいと思う何かを見つけることなんです」と語りかけたシーンは実に印象的であり、

本サミットの今後目指すべき「生命の追求」を如実に現したものであった。



司会進行 代表顧問・提唱者 中見利男氏

先生方も、患者・ご家族に寄り添ったご回答で、親身に、できるだけわかりやすく説明されました。

最後に先生方からも、全国のがん患者の皆さんに対して、エールの拍手が贈られ、今年のセカンドオピニオンが終了しました。

公開セカンドオピニオン終了後、原丈人大会長による『世界がん撲滅大阪宣言 2022』が発表され、会場は熱気と鳴りやまない拍手に包まれ、サミットは最高潮に達しました。



原大会長は、がんを撲滅する未来へ向かって挑戦し続けること高らかに宣言しました。

2023年は『世界がん撲滅サミット 2023 in OSAKA』が2023年11月3日(祝・金)正午より大阪国際会議場にて開催されます。

より一層、世界各国が力を合わせ、がん撲滅の運動を広げて参ります。

引き続き皆様方のご支援を心よりお願い申し上げます。

大会 HP (<https://cancer-zero.com>)。

写真は大会公式カメラマン アミタマリ氏撮影。
ありがとうございました。



また『世界がん撲滅大阪宣言 2022』では、すでに相談業務や調査を担当している大阪のPMDA 関西支所に再生医療、細胞医療、遺伝子医療、医療機器等の審査機能を新しく付与することで、2025年大阪・関西万博のレガシーにしていくための『大阪PMDA機能強化策』を提言していくこと、世界とわたり合い日本独自の医薬品のサプライチェーンを構築するために現在のPMDAを改革し、日本版FDAを目指すことなど、従来にない方策でがん撲滅の動きを今後益々活性化させて参ります。